

2003年10・11月合併号

Enfanter ● No.292

# あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む ②(計画などを)考え出す ③(作品などを)創り出す、の意

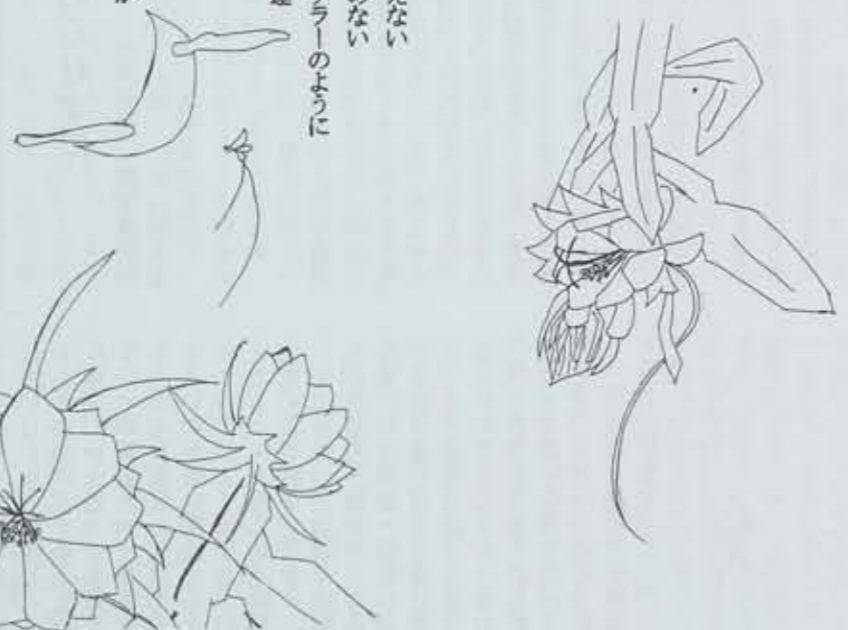
本音を押し殺し  
タテマエと処世術ばかりの  
大人たちは、子ども達に  
何を伝えたいのだろうか

子ども達は 感性の生き物  
目で 耳で 体全部で  
大人たちを 感じている

言葉に魂がなければ 聞こえない  
行動に真実がなければ 認めない  
そして、三重苦のヘレン・ケラーのように  
闇の中を暴走する 子ども達

大人は 子ども達に  
何を伝えたいのか  
人間として、どう生きるのか  
考える 必要がある

・詩 井上  
・イラスト 井上



[特集]

## 長崎の少年事件に思う

p2

・あんふぁんてからあんふぁんてへ p9 ・交流会報告 p13 ・情報コーナー p15

〔特集〕

長崎の

少年事件に思う

―親としてどう考える？―

何ができる？―

★七月一日、長崎市内で十二歳の男子が四歳の男児を誘拐、裸にして駐車場のビルから突き落とすという事件が起きました。家族と一緒にショッピングを楽しんでいた幼児が一瞬の隙に連れ去られたことから、幼い子を持つ親たちは、思わず「我が子は大丈夫か？」と子どもの手を握りました。

そして、犯人がわずか十二歳の中学一年生だとわかった時、何人もの親が別の意味で「我が子は大丈夫か？」と思ったのです。それほどこの事件は、子育て中の親たちにとって、そして多くの大人にとって衝撃でした。

あんふぁんてでは、前号(№291)に数名の意見を掲載した緊急の号外を同封、そしてさらに寄せられた投稿をもとに、この特集をまとめました。

(まとめ・川崎)

第一部

―子育て中の親の立場から―

他人事で終わらせずに

尾花沢市

この事件を初めて知った時、これは他人事ではないと思いました。長男がまだ乳児だった頃、二人で外出した時にはトイレの個室にも二人で入っていたけれど、次男が生まれ、長男も五歳になった頃からは、私が次男と一緒にトイレに入る時間、長男はひとり個室のドアの外で待つようになりました。時には女子トイレの外で待たせることもありましたが、時間が経つにつれて待たせていません。でもこの事件が起った時、たとえ息子二人と私の三人で入る個室がきつなくても、まだ少しの間は三人一緒に入ろう、きつさより命の方が大事、外出した時にはできるだけ息子たちを自分のそばにくっつけておこうと思いつきました。いっどこで大切な命が奪われてしまいかかわらないという恐怖でいっぱいでした。

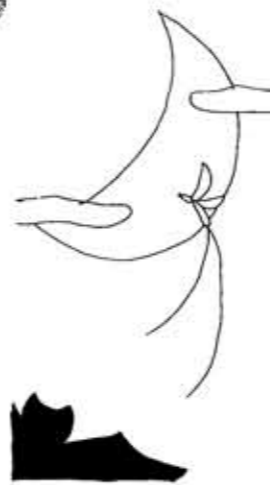
そして犯人が中学生、それもこの春まで小学生だったと知り、ものすごく不安になりました。ニュース等で加害者のいろいろな姿が伝えられているけれど、もし私が親だったらそれらに気付いていただろうか、子どものひ

とつひとつ言葉や行動をどう受け止め、関わっていただろうか等々、すべてに不安になりました。

息子たちはまだ乳幼児のかわいい時期なのに、このところ疲れやストレスで私自身がイライラし、子どもたちを丸ごと受け入れられていないことも多く、こういうことが子どもたちの心にどう残っていくのか、おおらかに育てたいと思っても母である私がゆとりがないのが現実だったり等々、すべてが不安でもちろん自信なんてなくて、どこをどうしたらよいか迷い始めています。夫とも子育てについてはよく話す方なのですがお互いゆとりなく語り合っている時間はないので、答えが出ないことが多いです。

やはり社会の問題で終わらせず、子どもたちが被害者・加害者どちらにもなる可能性があるという不安・恐怖から私自身逃げずに自分を振り返らなくてはいけないと思っています。まずは自分のイライラ、ゆとりのなさやどうにかすることが一番の課題です。

ひとりひとりがそれぞれの問題として考え、他の人の助けをかりながらもとりくんでいくことで、ひとつの点だったものが大きな形となって社会を包んでいけるといいなと思ったりもしています。



我が子に愛情を注ぎつつも、

親の負担を感じます

匿名希望

我が家も一人っ子の男の子。事件は衝撃的でした。夫はサラリーマンで忙しくて私は専業主婦。実家からは遠い。現在小学二年生の息子は生意気で反抗期。だけど幼くて甘えん坊。おまけに息子のクラスは学級朝壊になっています。学校があてにならないとわかって、親の負担を強く感じます。

私は人付き合いは苦手なほう。だけど自分と子どものためにも人とはかわっていかなくてはと思っています。人とかかわりの中で子どもは成長していくのではないのでしょうか。そして親の愛情、親からの愛があれば子どもは自分を大切にします。言うことを聞かない我が子に向き合うのは本当に大変ですが、それが親の仕事なのだと思います。私は父親の暴力が嫌で家出して結婚しました。盃んだ愛情で育てられた私は、子どもを育てることに常に迷いや苦しみを感じています。もちろん子どももから幸せももらっています。

本当にどうしてこんな怖い世の中になっちゃったのでしょうか。人は人によって癒されたり助けられたりするものなのに。優しいすてきな中学生・高校生もたくさんいるのに！



まず、自問することから

尾道市

長崎の事件は本当に衝撃でした。上の子は三歳なので、被害者に置き換えて考えるといいたまれない一方で、最近乱暴ものになっていることや、急に癇癇を起こすことを心配している母としては、将来加害者になりはしないかという不安もあります。

親の責任はもちろんあります。それは当たり前とした上で、どういことが間違っていたかを、そしてその危険は本当に自分の家族にはないと言い切れるのかと、自問することでは何か改善されていくのではないかと思えます。

未来は子どもの中にある…という言葉を新聞で読み、子どもを信じ、恐れず、正面から向き合うように育てて行きたいと、反省をこめて思いました。

思春期の入り口：生と性と

大阪市

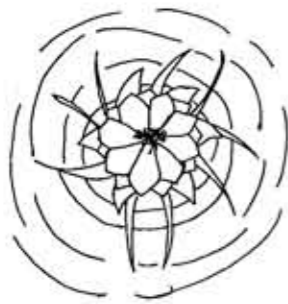
長崎の事件では、「子どもが加害者にも被害者にもなりうる」という現実を改めて突きつけられた思いです。ある日突然、世間を騒がせている事件の加害者が我が子である、という事実を突きつけられる重さを思いました。親として、子どもへの愛情をどういう形で表せば子どもに伝わり、まっとうに生きていく人として育つか。何とも言いようのない気持ちです。

と同時に、性教育の必要性を思います。この頃は、小学校でも知識としての「性教育」の時間が、一応はあるようです。でも、知識だけじゃ足りない。思春期の入り口に居る自分との付き合い方のようなこと、大人の体験談なども含めて「話を聞く場」「話せる場」「話し合える場」が要るんだと思います。

自分の身体の変化の受け止め方、他者の性との出会い。これを抜きに、思春期の疾風怒涛を語れないように思えるのです。そこをすっ飛ばして、「命を大切に」とだけ言っても、渦中にある少年少女には響かないような気がして。

全くの推測ですが、長崎の少年はもしかすると、幼児期に性的虐待を受けたのかも？とも思いました。

性教育は親がする、のが基本だとは思いますが、せめて、そのきっかけ作りが、家庭以外の場には少しでもあれば…。



長崎の事件に限らず、このところ日本はどうなってしまったのだろうかというくらい、ひどい事件が続いている。私はこうした事件の数々が「気づいて」「目覚めて」という、この社会に生きる私たち自身の集合無意識からの警鐘に思えてならない。

肉体に起こった「症状」と同じで、このような「症状」という「結果」が表れるには、それだけの「原因」がある。いわゆる「原因」と「結果」の法則だ。そして、その「原因」を考えるにあたって、母親がどうの学校がどうのという近視眼的な視点だけでは充分と云えない。まして親や学校を糾弾して何になろうか殺人犯を死刑にして、少年事件の親を市中引き回しの刑に処すれば、犯罪のない社会が築けるとでもいうのだろうか？

その発想は、「テロ」を撲滅するために、テロ犯をかくまっていたらどう、テロ支援を行ないそうと見なした国家に爆弾の雨を降らせ国民を虐殺し、国家を壊滅してしまえばいい」という発想と変わらない。やればやるほど、肉親を奪われ郷土を破壊された恨みと報復衝動というテロの「原因」は増えるだけだ。

あるいは、免疫力の低下によって起こったガン細胞の増殖に対して、免疫系を強化しようとするのではなく、ガン細胞に機銃掃射をくらわせ正常な細胞ともども焼き尽くしてしまう……という対処療法の発想にも似ている。どちらにも非常に狭い視点、短絡的な発想による

### 事件の真の「原因」は？

大田区

対処療法であって、「原因」を見据えた根本治療ではない。何より広い視野、長い目で、へいのち」全体を見ようとしていない。いま私たちに求められているのは、このへいのち」という「全体」を見て、それを大切にすべく社会全体で努めることではあるまいか。

私たちが暮らすこの日本では（世界でもそうだが）、いま、あまりにへいのち」が軽んじられている。人間の尊厳が踏みにじられている。「悪いやつ」「役立たず」というレッテルを張って、それを血祭りにあげる世の中。人間だけでなく、国家も（たとえばアフガニスタンやイラクの人々も）、「害虫」も（ゴキブリや蚊や蟻、農作物につく虫を忌み嫌って強力な薬剤で大量虐殺すること何が起こっている？）、「バイキン」も（さまざまな菌が共生してバランスをとっているのに一部の菌を抗生剤で大量虐殺することで耐性菌が猛威をふるい始めている）、ぜんぶ同じだ。

そしてそのいっぽうで、「命を大切にしよう」という空々しいスローガンを押しつけられる。その矛盾に、子どもたちや社会的弱者と呼ばれる、つまり踏みにじられている人間ほど拒否反応を示したくなるのも無理はない。「誰かをメチャクチャにしたい」と思うのは、その人自身が誰かにメチャクチャにされて、壊れてしまった「結果」なのだ。

「恐ろしい世の中だ」なんて、他人事ですませてはいけません。それをつくっているのは私たちなんだから。いまずぐ始めよう。全部がぜんぶ、起こるべくして起こっている……という視点を社会全体で共有し、根本治療に向けて取り組むことを。



長崎での事件後、政府の防災担当相であり「青少年育成推進本部」の副部長でもある鴻池祥肇氏が、「今の時代、厳しい罰則をつくるべきだ。（加害者）の親なんか市中引き回しの上、打ち首にすればいい」と発言し、大きな反響を呼んだ。これには、怒りを通り越して呆れてしまった。

親の責任を追及し罰しても、街中に監視カメラを設置しても、問題は解決するどころかますます親（特に母親）を追い詰め、子どもに「いい子」でいることを強要することになり逆効果だ。だが、リストラの嵐の中で個人がなにがしろにされている今、親にも教師にも子どもの気持ちを汲み取ったり痛みを共感したりするような心の余裕などないのも事実だ。これでは、子ども達に命の尊厳や他者への思いやりを伝えることなどできないだろう。

まず、自分自身を振り返ってみたい。そして、人とともに生きることの難しさや楽しさを、自分自身が感じることから始めてみたい。

(川崎)

### 子どもの力を信じたい

さいたま市

娘が生理になった。まだ小四なので、エーこんな早いのとびっくり。でも、胸も出てきていたし、おりものも始まっていたのでそろそろかとは思っていた。娘が女性になっていくことにとてもまどまどしている。今の世の中、いや今だけじゃなくて過去からずっと、多くの女性がしいたげられ、性暴力にさらされてきたから。

私は小さいころから、この世は女性にとっても安心な場所ではないのだということを知ってきた。母親からも学校の先生からも、テレビや週刊誌からも。夜道をひとり歩いて歩く時、どこだけ不安になることか。だから、娘がこれまでより、性暴力のターゲットになる身体にならなくて済むと（実は幼児、児童、男女問わず性暴力を受けているというほんとにひどい現実がある）不安になってしまおうのだ。けれど、娘が自分の身を守るために、何を伝えたら良いのかと考える時、世の中は危険だから気をつけなさい、ひとりでも出歩いちゃだめよ、誰か守ってくれる人（男）を見つけてなさいとは言いたくない。それでは、不安や恐怖が増し、自信を失うばかりだ。

自分の中に自分を守る力がある（たとえば大きな声を出して周りの人に知らせるとか、走ってその場から離れるとか、手や足、口を使って相手をひるませることができるとか）と感じること。危険を察知したり、そこに近寄らないようにする賢い力があるということ。自分が大切な存在だということ。いざという時



にできることを普段から想像してみること。これらはこれがあるワークショップで教わったのだが、私自身にとっても力を取り戻すきっかけになったし、娘にも伝え始めていて、いい感じだ。男の子達もまた、混乱と不安の中にいるのだから、子どもたちみんなにとっても必要なことだよなと思う。

胸が痛くなるような大変な事件を子どもたちが次々におこしているけれど、それはほんとに大人がやっていることの鏡だと思う……。何とかしてよという、子どもたちの叫びに聞こえる。金もうけ至上主義の中で、人を大切にすることより利潤追求、生産性の高いものほど価値があり、子どもの体も金に変えようと思ってしまう大人たち。そのなかで、混乱しつつ、世の中の要求に答えようと必死にならざるを得ない子どもたちがいる。いいように思う。

どうしたら良いのか途方に暮れそうになるけれども、でも、そうじゃない大人もいるよ。子どもたちのことを大切にしたいと思っている人もいっぱいいるよって伝えたいし、ほんとはこんなことしたくないんだってという子どもたちの賢い力を信じたい。そして、大人がまず変わっていかなくちゃってほんとに思っている。

図書コーナー

★「エイジ」 重松清 著  
朝日新聞社刊 一、二〇〇円  
エイジは十四歳の中学二年生。近所で通り魔事件が相次ぎ、犯人が中学生らしいという噂がちよっと気になるけれど、友情に初恋に部活にと悩みは多い。でも、犯人がクラスメイトだったことから、「なぜ？」を考え始め、そして自分も犯人の気持ちとすく近く近いところにいることを知り……

では、実際に事件を起こしてしまう子と思いついてどまる子とは、どこが違うのか？エイジはそれを「キレル」他者との関係を切る」とことだと自分なりに気付くのだが、まさにこれがその現実の世界の中でも重要なのだと思う。小学校高学年から中学生といえ、心も身体も大きく揺れる時期だ。その時、親や教師や大人たちは、まだ半人前なのだから言うことを聞けとやかましく口出しするが、でも目の前のその子とどれだけ本間に人間として繋がろうとしているだろうか。ほんのちよっとのことで爆発しそうな爆弾を抱えた子ども達に、生身の人間の姿を見せてやれる大人が何人いるだろう。理解あるふりをした仮面の大人達は、子ども達の欲求をどれだけ受け止めてやれるのか……

中学生の視点で中学生の心を書き切ったこの本、とても面白いし考えさせられる。必読である。

(川崎)

第二部  
―同時代に生きる  
大人として―

大人にも、受け入れて  
もらえる場があったこそ

松戸市

人間の心の中には恐ろしい魔物が住んでいる。自分でこの魔物をコントロールできるよ  
うになることが大切だ。子どもはコントロール  
ができない。コントロールの方法を教える  
のが、親であり、学校、地域社会である。こ  
の親、学校、地域社会の教育力、つながりが  
弱まっている。

誰でも人間は、「受け入れられる安心感の  
ある場や、人」が必要である。人間は弱い生  
き物だから、心のどこかで寄り添ってくれる  
人、空間が近くにあればいい。そして、一緒  
に楽しい時間をすごせればいいのにな。  
そして、親、学校、地域社会に「余裕」が  
なくなってきたのも問題だ。親は消費生  
活、情報にまどわされている。学校はころ  
ろ変わる方針で、先生もとまどって疲れてい  
る。地域社会はつながろうとせず、孤独な人  
が多い。つながろうとすることを拒絶されて  
いるような気もする。つながりの楽しさより  
恐いのかも知れない。考えれば考えるほど、  
暗くなる。

私も数年前までどうしようもない状態にあ  
った。ニューヨークで長男が五歳で知的障害  
と宣告された。暖かいまわりの助けで、障害  
児のサークルを作り、一人の普通の人間とし  
て認められ、楽しめた。夢の日々だった。  
九年前帰国し、重いニューヨーク病のまま  
生活していたら、痛い目にあった。今思うに、  
私は寂しくて、共感してくれる人が欲しかっ  
たのだが、現実には夫との仲が悪くなった。  
そこで外へ外へと活動した。私を認めて欲し  
かったのだ。だが、「障害児が生き生きでき  
る教育のため」と思ってた活動のため、  
家の中はほとんどできる場ではなくなってい  
た。いつからだろう、「まずは夫と仲良く  
協力して、家をやすらげる場にしよう」と決  
めたのは……

なるべく子どものいる時間は家にいて、夫  
にもやさしくしようと努力した。娘が、「お  
母さん、自己中心的じゃなくなっただね」とほ  
ろりと言った。今は、十六歳の知的障害の息  
子も落ち着いている。十四歳の娘は外ではい  
い子だが、家では反抗びんびん、かわいいな  
と思う。今まで「ののため」と思ってたとい  
いやってきたけど、余裕ができ、まわりが見  
渡せるようになってきた。年と経験を重ねる  
のもいいものだ。

親として何ができるのかと言われると、  
まず、ほっとして何でも受け入れてくれるホ  
ームを作ることからかな。それには、親が成  
長し、余裕ができなくてはいけない。私には  
ニューヨークの時から家族のように見守り、  
時にはきびしいことも言ってくれる年上の方  
がいる。何かあると相談していた。その時は

地域の中で、失ったものを  
取り戻す試みを……

世田谷区

プレーパークは子どもが自分の責任で遊  
ぶために、地域の大人たちが管理して、普段  
はできない、火での遊び、穴掘り、ダム作り、  
基地づくりなどを行える公園である。

日本では一九七五年頃から世田谷で始まっ  
た。私は羽根木プレーパークの開園から住民  
として参加し、そこで自主保育をして幼稚園  
に行かせないで子どもを育てた。プレーパー  
クは一九四三年、デンマークに開設されたの  
が始まりになる。世界中が第二次世界大戦で  
必死だった時に、デンマークでは子どもが創  
造的に遊び、子どもの遊ぶ権利を保障しよう  
とプレーパークを設立する。デンマークはな  
んと豊かな国なんだろう。

一九九〇年代から、プレーパークや自主保  
育はかなり名前が通って「知っている」とい  
う人も増えたし、「私の地域にもぜひ」と立ち  
上げ側で一石を投じる人も増えてきた。二〇  
〇三年現在、全国の一五〇ヶ所プレーパー  
クは開催されている。行政が事業として取り  
組んでいるところも少数あるが、大方は市民  
がこの指とまれで仲間を集めて、近隣の公園  
や校庭で月に数回、仮設で開いているものだ。  
プレーパークの魅力ってなんだろう。単に  
子どもの遊び場だが「自分の意思で遊ぶ」と  
いうモットーを通して見えてくるものが実に  
たくさんある。  
冒頭にも書いたが、火や水や土などで遊ぶ

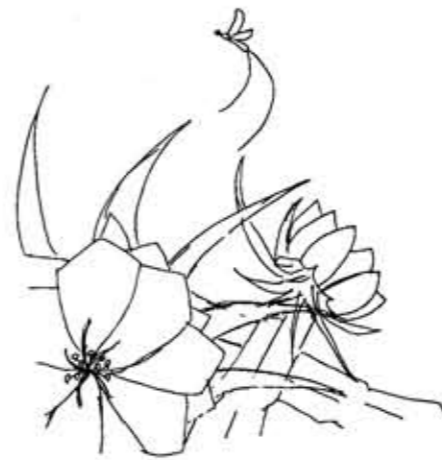
ことが何時の頃からか、本当にできなくなっ  
た。昭和五〇年頃までに子ども時代を過ごし  
た人なら、田んぼや川や畑で遊んだ経験があ  
る。でも今は、昼間は年寄りしか残っていない  
地方でも川や田んぼや用水で遊ぶ子どもは  
いない。そんなことしたら年寄りに怒られる  
し、第一、川や用水は立ち入り禁止で近づく  
ことも出来ない。都市部では景観的に整備さ  
れ土や水や石に触れることも出来なくなった。

これはどうして？これは子どもの希望  
か？それとも親たちの声が集積した結果か？  
誰もが私の責任ではないと答えるが、今の  
子どもたちはこの環境の中で、学び遊び生活  
している。その異常さにプレーパークで泥や  
水や火で遊ぶ子どもたちを見ていて気付かさ  
れる。利便性優先で建設された住宅や町や公  
共施設から子どもの遊べる身近な自然や地域  
が交流するスペースが削られ続け、早期教育  
の普及で乳幼児期から子どもは大人のカリキ  
ュラムに慣らされ、遊ぶというフアンタジー  
を育てる世界から本当に遠ざけられてきた。

そして、子育ての相互扶助や異世代の触れ  
合いを通して生きる多様性を学ぶなど、大人  
たちも社会のほんのりする柔らかな文化から  
ずいぶん遠ざかってしまった。この数十年  
のモータリゼン都市化で失ったものはなんと多  
いことかと。

プレーパークはこのように大人が気付く  
ことから始まる。そして、とても感性豊かに  
気付くも行動も早いのが乳幼児と一体となっ  
て生活している子育て期の女性たちだ。子ど  
もと密着した毎日で、子育てに余裕を無くし、  
それでも子どもの監督者として常に目が離せ

わからなくて、後でわかるから感謝。とにか  
く、一人で悩まないで相談すること、この安  
心して相談できる人を捜すのもむずかしいか  
な。  
私は子どもを産んでから十六年、とまどい  
間違いの連続だった。でも、それを一つ一つ  
乗り越えてきた今、静かな充実感と喜びをし  
みじみと感じている。でも、原点はなんと言  
っても「あんふぁんて」との出会いではない  
かと思う。あんふぁんての良さはすぐにはわ  
からないけど、人生のエッセンスかな。「あ  
んふぁんて」のメンバーは味があった面白  
いし、すぐ旧知の友になれるから不思議な会  
である。



ない母親という立場から窒息しそうになっ  
て、自主保育やプレーパークを知る。ここで子  
どもが大人の目を離れて遊び、そのことをと  
がめる大人はいないし、手が離れた大人は焚  
き火をして、自分の中の隠れていた子ども心  
を呼び戻している。

だからプレーパークの担い手には乳幼児  
の母親たちがたくさん参加している。ここは  
自分の子育てや子どものために用意した場所  
であり、何をしても自由だが子どもでも物事  
の責任は「あなたにある」という「自分の責  
任」という姿勢が貫かれている。自主保育で  
知り合った仲間と立ち上げ、父親や教師や行  
政をまきこみ地域に少しずつ定着してきたプ  
レーパークもある。

自律ある地域の再生の一つの試みとして  
プレーパークや自主保育に挑戦してみません  
か？

★フォーラム

「拡がる冒険遊び場活動と支援」

冒険遊び場を支援、啓蒙、普及していくた  
めの日本で唯一のNPOが開く、認証記念の  
フォーラム。プレーパーク(冒険遊び場)の  
歴史や現在の新しい取り組み、全国の実態等、  
日本での冒険遊び場の現状がわかります。  
日時 11月29日(土) 午後1時半〜5時  
場所 大妻女子大学・市ヶ谷キャンパス  
参加費 800円(資料代金)  
問合せ NPO日本冒険遊び場づくり協会  
来てくだされば、冒険遊び場について物知り  
になれる。そのような半日です。

子育ては社会と切り離せない

府中市

今年の春、『ボウリング・フォー・コロンバイン』という映画を観た。アメリカの片田舎、コロラド州リトルトンにあるコロンバイン高校で、二人の高校生が銃を乱射して先生や生徒を射殺、自分たちも自殺したという事件をきっかけに、監督自らなぜ彼らは銃を乱射したのか、彼らはどんな地域で暮らしていたのか、そしてなぜ人々は銃に頼ろうとするのか、と、突撃取材をする様子をカメラに収めたドキュメンタリー映画。アカデミー賞の授賞式で監督のマイケル・ムーアが巨体を揺らしながらブッシュ批判をしていたので、覚えてる人も多いと思う。私は恵比寿の映画館で見たが、八月末にビデオとDVDが発売になったので、レンタルをお勧めする。

この映画は言っていた。コロンバイン高校で二人の高校生が銃を乱射した時、ロッキード社の工場では兵器を大量生産し、アメリカ政府は他国に爆弾を落としていた。そんな中でいくらか若者たちに命を大切にと言ったって、うそっぽいだけ。彼らは銃を乱射して十数人を殺したけれど、国は暴力的な殺戮を繰り返してその何倍もの人の命を奪っているのだと。また、彼らが暮らしていた田舎町では、一度いじめられっ子になつたらずつとそのままだけの平和が続いていた。暴力的な過激さで知られるアニメ「サウスパーク」の作者も彼らと同じ高校出身だが、彼は自分のもやもややエネルギーをアニメという形で発散できた。

彼と二人の違いは、怒りやエネルギーを発散させ、自分自身の存在を実感するために、他の場、他の手段がみつかったかどうかということだけ。

今の日本は、銃こそおっぱひらには手に入らないが、ナイフをポケットに忍ばせている子は多い。娘の高校のクラスには、授業中に通販で買ったナイフを眺めてにこにこしている男子がいたし、中学の時は受験のプレッシャーから「昨日、親を殴ってしまった」という声が度々聞こえてきていた。立身出世はもろろん望めず、どんなに勉強してもはや親よりいい大学に入ることが難しくなった今の日本。どこかに出口を見つけないと、ガス抜きできる場がないと、子どもたちは潰れるか爆発してしまう。コロンバイン高校の事件は、とても身近なのだ。

では、大人たちに何ができるか？それは、大人達がどれだけ自分らしく生き、子ども達にナマの顔を見せてやれるかということだと思ふ。キレる男子も援助交際する女子も、子ども達の爆発は日本の社会全体が非人間的になつていく証なのだから、大人自身がまず肩書きや効率優先の考えを取り払い、競争から降り、いい親に見られたいなどと思わず、ありのままの自分を好きになることだと思ふ。そして、同じ社会に住む人たちと手をつなぎ、社会全体でゆつたりと、みんなの子をみんなで慈しみ育てて行けたら。今の日本に、少しでもその可能性が残っていると信じたい。

★この特集内容や少年少女の事件について、意見・投稿まっています。(特集スタッフ)

あんふあんでから  
あんふあんでへ

最近の事、地域アレコレ

新座市

最近の親にとって、衝撃的な「子ども」関連の事件が続いた。はつきり言って、今、幼児や小・中学生の親でなくて、ホッとする部分も正直のところある。じゃあ、世の中が、社会が、ホッとするかというと、何か、ずーっと気が抜けないというのが本音。

最初に「脱線」してしまうのですが...

九月十三日に地域のイベントで、太田昌国(おたまさくに)さんという人の話を聞き、最近刊の著書『「拉致」異論』あふれ出る「日本人の物語」から離れて」というのも、たつた今読破。何か、行けども、行けども、足からみつく、ぐちゃぐちゃな道を進んで、歩いて、そして「あー、もう二十年もしないうちに、死ぬのだー、あー」と嘆息の私なのです。彼の話のポイントは、最近の世の中の空気

について、心情がらみの「日本ナショナリズム」への警告です。例えば、例の拉致問題に関して、被害者の会や家族会やらの人々が被害者心情によりかき、ひどく政治的に動き出し、彼等に、意見を言うのもタブーのような「聖域」みたいな雰囲気。そして、日本人だけが被害者のような、排外的な感情の嵐。それをあおる、マスコミ等々。もう、ちよつと冷静に、「歴史」を検証して、物事を一つずつ解決していこうよ、という政治家はいないの？

日本政府と北朝鮮政府が、国家同士の論理で角突きあいをしている状態だ。一方が「北朝鮮が拉致問題に対して何の誠意も示さないのに、なぜ日本が先に低姿勢で、食料援助の要請に応じなくちやいけない」と言え、他方は「日本が植民地支配問題に対して、五十八年間もの長いあいだ何の誠意も示さないのに、なぜ共和国が先に低姿勢で拉致問題解決の要請に応じなくちやいけないのか」と言う。これでは、それこそ永遠にラチがあかないじゃないの。太田さん曰く、「他者につきつけることは、自分にもむけること」と。

いきなり飛躍して、何を言いたいのか、あやしくなりそうですが。一九七〇年から一九八〇年にかけて「子育て中」の私の不安は、もつと神経質だったような気がする。経済中心で、どんどん忙しくなる日常。効率重視の社会の中で、効率の悪い(つまり生産性のない)女と子どもは(そして、高齢者・障害者も)、どんどん生きづらくなる。酸素不足の金魚のように口をバクバクしつ、あ

この暑いにかッカと頭に血がのぼる  
お馬鹿な発言とジェンダーパッシングの  
あれこれ (その1)

小平市

- ①「みんなのDNAの中には子どもをつくりたいというものは、衝動・本能としてあるはず。そうでないということは何か別の、頭に変な縛りが掛かっている。」「それは男に縛りが掛かっている?」「両方。本質的には男性の方に。プロポーズできる勇気のない人が多くなった。」「プロポーズできないから集団レイプする?」「いや集団レイプする人はまだ元気がある、まだいい、まだ正常に近い。」
  - ②「子どもをたくさん作った女性に将来、国がご苦労さまでしたと言つて、面倒を見るというのが本来の福祉。ところが子ども一人も作らない女性が、好き勝手とはいっちゃいかんけど、まさに自由をおう歌して楽しんで、年をとつて他の税金で面倒見なさいというのは本当はおかしい。」
  - ③「若いお母さんたちは、要は長く預かってくれる方がいいわけ、出費が少なければいい。ひどいものになると主人と映画を見に行くから預かってと言つて、そういうのがいっぱい出てくる。」
  - ④「保育園、幼稚園から来る子は(小学校で)全然違うらしい。例えば行進、整列。保育園の子は並ばない。幼稚園はきちっと並ぶ。」
- おわかりでしょうか、①は太田誠一氏と田原総一郎氏、②③④は森喜朗氏の6月26日全日私幼連九州地区会、設置者・園長研修会での発言です。  
(7月8日の南日本新聞より)



んふあんでを続け、一人じゃ駄目でも友達がいればと一途に仲間づくりに飛び廻っていました。

本当に近所・地域へもアクティブで、挑戦的で、コワイもの知らず。共同保育のグループを運営していた頃も、あんふあんでの仲間の子ども達は、三十分から六十分と、電車や車で、通つてくる。至近の隣の友達の子ども達と時には、まぜこぜにして。みんなまざれ込んで、遊んでいた。「あそこに行けば、遊ばせてくれる」と近所の若い(多分、十代で、二人くらい産んでた)母親とか、随分喜んでた。

子ども達が、中高生になるまでの十年間は、捨身でご近所さんと闘っていたかも知。そして、気がつけば転居を繰り返して、やっぱ『イザという時』は、あんふあんでの友人。地域なんて、どこでもたいして変わらないうちから、最後の転居地(団地)でも、自治会を一年やつて、「パス・ポート」獲得。つまり、ボランティアを礎に、「自分」を通す。四百世帯の団地で、百人は、顔と名を覚えた。独り暮らしでも、生きていける地域になりつつある。

●**仙台市**  
「知的障害者通所更生施設」での、読み聞かせの活動をしています。近くの市民センターの図書室で小学生相手に読み聞かせボランティアをしていたら、地域にある知的障害者施設の職員から「ウチの施設でもやってもらえないか？」と依頼されました。  
元気がガキどもと軽口たたきあいながらの本読み会しか想定していなかった私たち。十八歳以上のハンディキャップを抱えたコミュニケーションのとりにくい方たちと本を媒体としながらどう関わっていけばいいのか悩み読み聞かせグループの四名で何度か話し合いました。  
せっかくなので出会いだからできることからやってみようというところで、月一回のペースでスタート。その日のカリキュラムで「本読み」班になっている数人に、紙芝居や本を読み、班全員で楽しんだ後、個別に対面朗読のような形でやっています。現在は、月二回ペース。障害は個性であることを実感しています。

●**武蔵野市**  
健康のことを考えるようになって、太極拳を始めた。仕事再開のための情報収集と、周囲への宣言をした。  
●**匿名希望**  
戦争反対のデモに行ったり、在日朝鮮・韓国人問題に関わったり...  
その一方で、新築の家を飾るための小物作りをしました。



「この一年私が頑張ったこと、感じたこと」  
(来期案アンケート他より)

●**横浜市**  
仕事はがんばった！誉めてほしい！でも、なんか疲れちゃったなーと思う瞬間があるのも事実。まずはこの先十年、どんな暮らしにしようかと考えます。  
●**習志野市**  
三線を習っています。何とか音が出せるようになった程度ですが、おけいこ代の為に働くかと思ったり、生活を変化させてくれました。

●**沼南町**  
編集学校（インターネット上の「学校」）で編集を学びました。  
●**文京区**  
習い事（童話教室）。童話を書いていると気が充実しているし、毎日を肯定できる気がします。  
●**品川区**  
不本意だった仕事から何とか転職し、保育園の父母会活動もした。  
●**飯能市**  
パソコンのメール、メール・マガジン、インターネットなどをやり、インターネットを使った子育て支援の構想を練った。多言語や風水インテリアにも興味があり、ネットワークビジネスにおける主婦の可能性についても考えてみた。  
また、子どもや夫のことだけでなく、自分のやりたいことを追求してみた。

●**越谷市**  
仕事と趣味（ピアノ）と仕事のためのスキルアップ（英語）。  
●**多摩市**  
車を運転できないと不便で、気がつくまで家に子どもとこもってしまふことが多く、気持ちが落ち込みがちでした。これではいけない！と教習所の力を借りて、「脱ペーパー・ドライバー」しました。

●**名古屋市**（現在は横浜市）  
大学三年に編入し法律の勉強を始めたが、期末テストで散々な結果であった。しかしそれもまた、楽しい。  
法律とは別に、子どもの時から好きだった歴史関係で、ひとりの人の一生（ライフストーリー）を時代に位置づけてみたいと思う。近代史（明治〜今）の中の個人とは何か、女性の伝記、自分の祖父の一生について調べ始めている。

●**尾花沢市**  
次男を出産し、兄の保育園や自営業の家のこと等々で毎日日本中に忙しくて、ずっとドタバタ走り回っていた気がします。これからの一年間は少しゆとりを持ちたいと、改めて今思いました。  
それから、趣意書はすぐよかったです。特に「事務局ってどんな所？」がよかったです！いつも住所を見ては「高村さんという人の家なのかな？」と謎だったので...。他の項目もわかりやすかったです。



●**市川市**  
子育て業界に関することでしようかネエ。サークルを運営したりとか...。でも、このように改めて聞かれると、何もまとまったことしてないのかなあーって思いました。

●**名古屋市**  
電話相談など女性支援全般。  
●**練馬区**  
子ども家庭支援センターで発行しているミニコミ誌づくりをした。地域にママ友がほしくていろいろな場所に顔を出したが、あまり達成できず。

●**小諸市**  
十年近く主婦として外に出ることをほとんどせずにいたので、友達との再会の機会を設定したり、趣味（トルベイント）やパソコン教室（市の公民館主催）、短期のアルバイトなど、めんどくからがらずに（?!）「はじめの一步」をふみだすことに挑戦しました。そのお陰で、人とのつながりが広がって嬉しかったです。



「私の近況・心境・状況」  
二人目を出産して感じたこと

尾道市

こんにちは。七月十三日に女の子を出産しました。いつも会報をたのしみにしています。少子化対策基本法のこと、本当に考えさせられますね。妊娠、出産を通して改めて感じました。妊婦検診は保険がきかず、一回の受診料も決して安くはありません。若い妊婦さんは、検診日を飛ばしたりしているというのもし聞きました。安心して、検診がうけられ、夜中に生んでも、祝日に生んでも個人の責任じゃない以上、負担はかからないようにすることが本当の少子化対策なのではないでしょうか。  
妊娠、出産、育児にまさに直面している人の意見を聞いて、そのリスクを取り除くことから、とりくんで欲しいものです（産科病棟に一日いれば妊娠出産でどれだけ出費して...という生の声を、すぐに聞くことができるのに）。

少子化対策を考える人が経済的にも恵まれ、育児もしたくないのであれば、実際に則することは難しく、国の為に産め増やせよということであれば、まるっきり発想が違いますね。



### 家計のダイエツトや子どもの金銭教育、とつても大切だと 思います

日野市

こんにちは、あんふぁんてOBの岡本です。私には二十四歳と二十二歳、十六歳の子どもがいます。上二人の時と末娘の時の二回、あんふぁんてで共同保育をしてきました。今でもその時の仲間に逢うとすぐに昔に戻ったようで、大変懐かしい気がします。

私は十五年前に実家の母親が倒れてから、(父はその六年ほど前に他界していましたが)、銀行で多額のローンを借りて実家を三階建てにし、テナントとワンルームマンションに改装し賃貸してきました。しかし、何の知識もなく、会計士の言うがままに印を押し税金を納めていることに疑問を感じるようになり、税金・不動産運用・経済・経営等の勉強がしたくて大学のセミナー等を探したりしている時、ファイナンシャル・プランナーの存在を知りました。

「これだ！」と思い早速講座に申し込んだところ、初めはなかなかついていけませんでした。が、やっといううちに面白くなり、生活に役立つことばかりだと眼からうろこの日々でした。そして遂に昨年CFPを、今年には国家資格FP(ファイナンシャル・プランナー)技能士一級を取得しました。

ところで、この不況の中、皆さんは家計が苦しいと思いませんか？子どもがいると食費や教育費は削れませんよね。一番減らせるのは何だと思えますか？ダンナさんが会社で

入った定期付終身保険なるものはありませんか？よく解らないままに月何万円も払っているけれど果たして本当に必要なのか？とか、いざという時入院保障は万全なのか？とか、不安になりませんか？

私は自分自身がFPになってみて、保険は一軒一軒にふさわしいものが違うのだということに気付きました。しかも、どこかの保険会社に属するのではない独立系のFPだからこそ、それぞれの家がふさわしいのか客観的に見ることができると解ったのです。

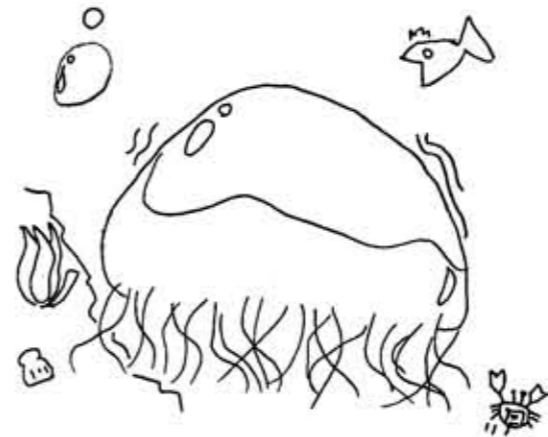
タンスの中の保険証券をちょっと開いてあれこれ考えれば、家計のダイエツトができるかもしれません。あなたの家に一番適した保険を考えてみることをおすすめします。私であれば、連絡を下されば無料で相談にのることもできます。

また、私はFPの仲間と「ぐらしの経済サポートセンター」というNPOを申請中で、今年中に認可が下りる予定なのですが、そこでは子ども達の金銭教育をしたいと思っています。それは、今の子ども達が高校卒業と同時にカード社会に放り出されてしまうからです。大学の学生証や生協カードにもクレジット機能が付いていたりして、何も教わらないうちにローンやクレジットを利用してしまっています。

子どもたちは、毎日いやでも目にし耳にするCMでクレジット会社を身近に感じているかもしれないですが、その裏にある怖さについても体系的に知っておく必要があると思うからです。小・中・高校の家庭教育学級などでまたあんふぁんての集いで、もしそれぞれの

年令に応じた金銭教育について考えたい、話が聞きたいという時には、出前講座もやりますので、ぜひご連絡ください。

※CFP=普通資格のAFP資格者が受験できる上級資格。  
AFP-affiliated FP CFP-certified FP



### 『子育て中の人もいる』

これからのあんふぁんて

何故、いま、縮小化か



事務方の手違いで、交流会の場所がとれていなかった当日。やっど確保したミーティングはあまり時間もとれず、十分に話し合いができたとは思えませんが、参加申し込み連絡がゼロで、元気が出ずに悲観的になっていくスタッフに対して、少しは前向きにさせてくれた参加者十二名に感謝します！

### 【まずは、今年度一年間の報告から】

●子育て広場『トライアル』は9月11日、10月2日、11月27日、1月22日、3月26日、4月21日、5月28日の7回実施。でも参加者は波があつて、少ないと1、2名の時も。その時は保護者同士でのミーティングに。

●主な企画としては、12月21日『赤い鳥』連続講座、2月1日『新年会』、2月4日と3月1日『ママ友』ワークショップ&講演会、3月29日『花見と大道芸』、5月17日『神楽坂土曜あんふぁんて』、6月7日『エポック10まつり』での映画上映と講演会&トークサロン、6月18日『ティープレイク』、7月23日『荒川自然公園での平日あんふぁんて』の開催。

低調なものもありましたが、特筆すべきはママ友ワーク&講演会を実施した「グループ・アヴァン」です。東京都の助成金申請のゼロから始めて、場所探しから講師の交渉、打ち合せ、資料作りやチラシ作り、申し込み受付、保育者探しと打ち合せ、当日の受付と司会進行、参加者アンケートの集計と会計報告、東京都への報告書提出と、あんふぁんて会報特集へのまとめ、これらを三、四名でやり切ったのです。拍手！

●その他イベントとしては、11月2日のNPO事業サポートセンター主催『子育て支援環境づくりを考えるフォーラム』、11月23日の子ども劇場全国センター主催『子育て支援メッセ2002』、12月14日 多摩地区での『地域の子育て支援フェア』、1月21日世田谷での『子育てミニメッセ』、2月14日の東京都児童会館の『子育て交流会』、5月10日の日比谷公園での『子育てメッセ』に参加し、本や会報を展示・販売したりしてPRしてきました。

●会報は、後半の4月号『年令』、2月号『ママ友』、3月号『再就職』に反応が多くありました。『ママ友』のその2を7月号にも特集し、二年続けての5月号には、学校問題、平和問題もずいぶんと継続的に取り上げてきました。反対に、男性の出産のことや預け合いに関しては、反応が少ないのが現状。

それにしても会報を作るメンバーが少ない中で、よく今まで出してこれたなと思えます。●その他、少子化への提言やら、法案への反対行動やら、選挙などの活動もやってきました。また、ホームページは協力担当してくれた会員もいて、無事に継続中。ただし、書き込み自由の掲示板形式は、管理者の負担が大きく、現在では無理なようです。

### 【さて、昨年の交流会で

決まったことは？】

- ①『あんふぁんて』の原点確認
- ②活動の形にとらわれない
- ③出会う面白さをみつける
- ④30周年に向けての準備とありましたが、①に関しては会報でのコラムも投稿が続かずにしり切れトンボに。ただ、子育て支援の高まりの中、対外的に子育てグループとして参加発言していく機会も多く、自ら『あんふぁんて』とはと説明していくことも必要になり、趣意書等を活用してきました。

②については、いつも事務局が中心となってやってきたけれど、グループ・アヴァンのように頑張れば会員の誰もが活躍できる!というところがわかって、新しい形に望みが出てきた気がします。

③「トライアル」や平日あんふあんで、飲み会などをやってきたはずだけど、参加者は限られた人が多く、残念な結果に。

④は、やっと後半になってスタートし始めたところだ。

「では今期は、

どういう方針でいくか」

●最も大きな問題は会員数が増えない、経済的に苦しいという現状です。昨年は308名、今年は260名に減ったままです。また、第二には協力スタッフが少なく、投稿や手紙、電話、催しへの参加なども減って、会員のエネルギー、パワーが伝わってこず、事務局が息切れ状態になってきていること。

●そこで、スタッフからはリストラの提案。そもそも会報作りは活動そのものであり、事務局はあくまでも事務処理の係。会報を作るのにとっても苦勞しているのはおかしい。会報が作れないのは活動がないからじゃないか。会員たちの考える力、問題提起していく力、

表現する力、発言していく力がないのなら、会報はできない。いつまでもごく限られたメンバーだけが作っているのも不自然ではないか。できないのなら、休刊するのはどうか。事務量も減っているのなら、事務局も毎日来なくても、週一〜二日に減らして、人件費も減らすことが可能である。

それに対して、会報だけがたがりである人も多く、それはとても影響が大きいのではないかの意見も出た。

●そんな中で、子育て中のグループというのは、女も子どももイキイキできる、いろんな人がいる、女も子どももイキイキできる社会をめざすという風に、現状をそのまま受け入れた形にすれば、無理がなく、苦しくないのではないかと意見が出て、一点突破!というイメージを売りにするからムリがある。会報も、若い世代にわかりやすくとか、意識しすぎて苦勞している感じ。自然体で言っているんだ!と、肩の荷が軽くなった気がしました。

●ということで、あんふあんでの原点を、女も子どももイキイキできることをめざすと設定。会報を増ページして二ヶ月ずつの合併号にし、郵送費、印刷費ともに節約。事務局も半減し(その程度は当人たちに任せて)、人件費・交通費を節約。ということに決定!

●さらに、会員みんなでの広報活動ということで、最新の情報やメッセージを載せたあんふあんでの子ラシを制作し、会報に同封、各々が近くの女性センターや子育てコーナー、保健所などの掲示板に貼ってもらったり、少なくとも一名に手渡して宣伝することを目標としたいと思います。

●また、子育て支援策に予算がついて進められていく時期に、しっかりと女性の自立に根ざして、将来の社会をも考えて、子育て女性の立場で社会的発言をしていける数少ないグループとしての役目も担っていけるようでありたい。

●ともかく、地味に小規模でもいいから、自身の濃い関係性や考え方、活動で、なんとか続けていきたいものです。(古知)



P.S.  
現在あんふあんでではW代表制を採っており、幾代、さんのほか、一名が交代で代表になっています。今期(2003年10月〜2004年9月)の新代表は、増永 さんに決定。

## 情報コーナー

### ★子どもNPOフォーラム2003

10月19日(日) 午前10時〜午後4時  
みなとNPOハウス(六本木駅近く)にて  
※校庭・校舎・体育館を利用した、親子ふれあい広場(ミニコンサート、お化け屋敷、育児相談、大人のしゃべり場等)や子育て・子育て支援団体ブース(あんふあんでも参加)主催・特定非営利活動法人  
日本子どもNPOセンター

### ★豊島区教育委員会委嘱講座

「自分にとつての(家族)を考える」  
保育付き・三回連続講座  
場所・エポック10多目的ホール  
(池袋駅隣接メトロポリタンプラザ10階)  
各回定員100名・参加費無料

第1回「様々な家族の形」  
講師 ふえみん(女たちの新聞)  
共同代表 赤石千衣子さん  
日時 10月22日(水) 午後2時〜4時

第2回「事実婚と私の場合」  
講師 元塾講師 松井正枝さん  
日時 10月29日(水) 午後2時〜4時

第3回「参加者が考える  
それぞれの家族の形」  
日時 11月5日(水) 午後2時〜4時

保育あり(2歳以上未就学児・託児料無料)  
※2歳未満のお子さんをお連れに  
なりたい場合は、ご相談ください。  
申込み・問合せ先は  
申込み・問合せ先は

### ★劇団遊楽—大阪公演&東京公演

オリジナル(冒険活劇)『蒼天彷徨』  
金満里さんを中心とした障害を持つ人たちの劇団『遊楽』が、革新的な身体芸術の可能性に挑み続けて二十年。節目の年の今回は、捨てられ奪われることへ向き合う物語です。  
大阪—心齋橋・ウイングフィールド  
10月10日(金) 午後7時半〜  
11日(土) 午後7時〜  
12日(日) 午後1時〜 午後7時〜  
13日(月・祝) 午後2時〜

### ★劇団遊楽—東京公演

前売2800円・当日3300円  
障害者十介助者割引4600円(予約のみ)  
一時間前受付・整理券発行、30分前開場  
東京—新宿・タイニエアリス  
11月3日(月・祝) 午後6時半〜  
4日(火) 午後2時〜 午後7時〜  
5日(水) 午後6時半〜

### ★劇団遊楽—大阪公演

前売3000円・当日3500円  
障害者十介助者割引5000円(予約のみ)  
4日2時からの公演のみマチネ割引あり  
一時間前受付・整理券発行、30分前開場  
劇団遊楽 06(6320) 0344  
大阪会場 06(6211) 8427  
東京会場 03(3354) 7303

### ★「次世代育成支援

いいお産の日 2003」(参加無料)  
11月3日(月・祝) 午前10時〜午後3時  
日本教育会館(千代田区一ツ橋)  
3階・一ツ橋ホール(シンポジウム会場)  
8階・会議室(各ブース会場・体験会場)  
①3階シンポジウム「aiをたのしむ」  
ゲスト・三田寛子(女優)  
三砂ちづる(疫学者)  
聞き手・龍村仁(映画「地球交響曲」監督)  
②8階体験ゾーン「aiを感じる・つなげる」  
・妊産婦や乳幼児への実践的な知恵の提供。  
・お産関連グループの紹介(あんふあんでも参加)、役立つ情報の提供、相談など。  
③8階会議室 医療関係者や専門家が一同に会しての「いいお産」についてのプレゼンテーション企画。赤ちゃんと一緒にぜひ。  
主催・厚生労働省・財団法人こども未来財団  
「いいお産の日」事務局  
TEL.

### ★「親と子の人間関係について」特集を企画

しています。原稿募集!  
「親子の関係」と一言で言ってもすでに自分も親である場合があり、自分の子どもとの関係と、自分の親との関係のちよと真ん中にいる年齢の人が多いのではないかと思います。そんなサンドウィッチ状態の中で感じる親子関係、または「この親にしてこの子あり」なんて思いがあれば、ぜひ、一言書いて送ってください。へびいな内容でもOK!締め切りは、11月15日。あて先は事務局まで。原稿は郵送・FAXどちらでもOK!



★30周年記念イベントを  
成功させよう!④

8月23日の第3回相談会で、  
あんふぁんて30周年記念イベントの  
骨子が決まった!

①ビデオと冊子を制作 講演会を開催  
あんふぁんての発足と趣旨など、30年  
の歴史と子育ての変遷をビデオ制作し、  
初期から現在までのあんふぁんての流れ  
を検証する。

②年表の展示

あんふぁんての活動と、社会状況、子  
育て状況の30年の変遷を掲載

③プレ30周年記念イベントを開催

来年の『エポック10まつり』に参加、  
あんふぁんて30年の活動を発表、アピー  
ルする。

※どうやら制作スタッフ、出演者と人手  
がかりそう。協力スタッフに名のりを  
挙げてほしい!

連絡は事務局 または、福野  
(夜間)まで。

●あんふぁんてでは会費のみで運営してい  
る会。会費の支払いがまだの人は、至急  
振込をお願いします。会費が切れても、  
本人からの連絡がないと、退会・休会措  
置がとれません。休・退会・転居などの  
時は、事務局まで連絡を。

★12・1月合併号の特集 原稿募集!!

年金改正ーパート主婦も年金加入か?!

厚生労働省は2005年年金改正実施  
に向け、2000年年金改正時に今後の  
課題とされた、年金制度の不均衡や国民  
年金の未納・未加入問題、基礎年金の財  
源方式や少子化による財源の担い手減少  
問題、国民年金の第三号被保険者制度や  
遺族年金など女性をめぐる年金問題など  
について審議していて、来年国会に改正  
案を提出の予定。

パート主婦(第三号被保険者)の年金  
加入について、あんふぁんての皆さんは  
どう思いますか?意見を10月末までに  
事務局に寄せてください。  
(特集担当:福・福野)

事務局から

●会報が今月から二ヶ月毎の合併号にな  
りました。次号は、12・1月合併号です。  
(詳細はP14の交流会報告参照)

●新年度の代表(2003年10月〜04  
年9月)が増永 さんに決定しました。

●秋は講座やイベントが多いため、子育  
て広場トリアルはお休みします。

へスケジュール・メモ

11月17日(月)ミーティング(事務局)

12月8日(月) 12・1月合併号発送  
(事務局)

12月24日(水)〜1月7日(火)は事  
務局冬休み。事故などの連絡は封書で。

あんふぁんてホームページアドレス <http://>

事務局までの地図

☆当会について詳細を知りたい場合、封  
書に〒・住所・氏名・☎を明記し、切手  
四百円分(なるべく少額切手)を送って  
下さい。入会希望の場合はなるべく会費  
六ヶ月分(三千円)以上まとめて、郵便  
局の振替口座に払い込んで下さい。

第292号(隔月5日発行)  
2003年10月5日発行  
(1975年7月26日初刊発行)

あんふぁんて 10・11月合併号

発行人/  
発行所/あんふぁんて出版部

電話  
(☎平日12時〜2時それ以外FAX)  
定価/500円  
振替口座/  
加入者名/あんふぁんての会

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。